

付録 C

AI 活用の実践的 Tips

～出力品質を劇的に高める「プロの技」～

プロンプトをコピー&ペーストするだけでも十分に役立ちますが、ちょっとした工夫で AI の出力品質は大きく変わります。本付録では、経験豊富な法務担当者が実践している「AI 活用のコツ」を、すぐに使えるテクニックとして紹介します。

1. 効果的な追加質問の方法

AI との「対話」で出力を洗練させる

AI の最初の出力が完璧でないことは、むしろ普通です。重要なのは、「[追加質問](#)を通じて出力を洗練させることです。AI との対話は「一問一答」ではなく「会話のキャッチボール」と考えましょう。

【追加質問の基本パターン】

- 1. 深掘り質問 「○○について、もっと詳しく説明してください」 「△△のリスクを具体的な事例を交えて教えてください」
- 2. 焦点絞り込み質問 「上記の 5 つのリスクのうち、最も重大なものはどれですか?」 「当社が最優先で対応すべき事項を 3 つ挙げてください」
- 3. 修正・改善要求 「もっと簡潔にまとめてください」 「経営層向けに、専門用語を減らして書き直してください」
- 4. 比較・代替案要求 「A 案と B 案のメリット・デメリットを表形式で比較してください」 「他にどのような対応策が考えられますか?」
- 5. 根拠確認 「この判断の根拠となる法律や判例を教えてください」 「なぜそのように考えるのか、理由を説明してください」

実践例：契約書レビューでの追加質問

【シーン 1：初回出力が抽象的だった場合】 AI の出力：「損害賠償条項にリスクがあります」

✗ 悪い追加質問：「わかりました」（終了） **✓ 良い追加質問：**「どのようなリスクがあるのか、具体的に教えてください。また、そのリスクを回避するための修正案を 3 つ提示してください」 → AI は具体的なリスク（賠償額の上限がない、間接損害も含む等）と修正案を提示する

【シーン2：出力が長すぎて読みづらい場合】 AIの出力：（10ページにわたる詳細な分析）

✖ 悪い追加質問：「もっと短くしてください」（漠然としている） 良い追加質問：「上記の分析を、エグゼクティブサマリー（A4用紙1枚、箇条書き5項目以内）にまとめてください。特に『経営判断に必要な情報』に絞ってください」 → AIは簡潔で要点を押さえたサマリーを作成する

「聞き方」で出力が変わる：マジックワード集

【出力品質を高めるマジックワード】 • 「表形式で」 → 見やすく整理された出力 • 「具体例を交えて」 → 抽象的な説明が具体化される • 「○○の立場から」 → 視点が明確になる（経営層、営業、顧客等） • 「ステップバイステップで」 → 手順が明確になる • 「メリット・デメリット」 → 比較検討しやすくなる • 「優先順位をつけて」 → 重要度が明確になる • 「○○と仮定して」 → 条件を明示することで出力がブレない • 「A4用紙1枚で」 → 分量が適切になる • 「中学生でもわかるように」 → 平易な表現になる • 「法的根拠を示して」 → 条文・判例の引用が追加される

2. 出力品質を高めるコツ

コツ 1：「役割」を明確に指定する

AI に「役割」を与えることで、出力の専門性と精度が大きく向上します。「あなたは〇〇です」という **ロールプレイング** は、AI 活用の基本中の基本です。

【役割指定の例】 悪い指定：「契約書を作ってください」 良い指定：「あなたは企業法務経験 10 年のベテラン法務担当者です。製造業の企業で、下請法にも精通しています。以下の条件で業務委託契約書を作成してください」 → 役割を明確にすることで、業種特有の視点（下請法への配慮）が出力に反映される

コツ 2：「制約条件」を具体的に伝える

「〇〇文字以内」「A4 用紙△枚」「箇条書き 5 項目」など、制約条件を明示すると、AI は期待通りの分量・形式で出力します。

【制約条件の指定例】・「800 文字以内でまとめてください」・「A4 用紙 2 枚以内で報告書を作成してください」・「重要な論点を 3 つに絞ってください」・「経営層向けに、専門用語なしで説明してください」・「結論を最初に、理由を後に書いてください」

コツ 3：「出力形式」を指定する

【出力形式の指定例】・「表形式（横軸：項目名、縦軸：評価）で出力してください」・「箇条書き（番号付き）で出力してください」・「結論→理由→具体例の順で説明してください」・「Q&A 形式で、よくある質問 5 つとその回答を作成してください」・「チェックリスト形式（□で確認できるように）で出力してください」

コツ 4：「段階的に」質問する

複雑な問題は、一度に全部を聞くのではなく、「**段階的に**」質問すると、より良い出力が得られます。

【段階的質問の例】ステップ 1：「この契約書の全体的なリスクを評価してください」↓ステップ 2：「リスクが最も高い条項を 3 つ挙げてください」↓ステップ 3：「それぞれの条項につ

いて、具体的な修正案を提示してください」 ↓ ステップ4：「修正案を相手方に提案する際の説明文を作成してください」 → 一気に全部を聞くより、段階的に深掘りする方が精度が高い

コツ5：「良い出力」を保存・再利用する

AIが特に良い出力をした場合、そのプロンプトと出力をセットで保存しておきましょう。次回から同じプロンプトを使えば、同じ品質の出力が得られます。

【保存・再利用のヒント】 • Wordやノートアプリに「プロンプトライブラリ」を作る・カテゴリ別に整理（契約書、訴訟、労務、M&A等） • 「このプロンプトはこういう場面で使う」とメモを残す・チーム内で共有し、ベストプラクティスを蓄積する

3. 複数の AI を使い分ける戦略

ChatGPT、Claude、Gemini の特徴と使い分け

主要な 3 つの AI (ChatGPT、Claude、Gemini) は、それぞれ得意分野が異なります。用途に応じて使い分けることで、業務効率がさらに向上します。

【ChatGPT (OpenAI) の特徴】 得意なこと：・契約書のドラフト作成（構造化された文書が得意）・法的論点の整理（論理的な分析が強い）・プログラミング・データ分析（Code Interpreter が使える）・多言語対応（英語の精度が特に高い） 注意点：・最新情報は 2025 年 1 月まで（Web 検索機能もあるが制約あり）・長文の処理は苦手（トークン制限がある） おすすめの使い方：契約書のドラフト作成、法的論点の体系的整理、データ分析

【Claude (Anthropic) の特徴】 得意なこと：・長文の理解と要約（最大 20 万トークン対応）・複雑な文書の分析（契約書、判例、規程等）・細かいニュアンスの理解（文脈を踏まえた出力）・倫理的・安全な回答（有害な出力を避ける設計） 注意点：・最新情報は 2025 年 1 月まで・Web 検索機能はない（外部情報は入力が必要） おすすめの使い方：長文契約書のレビュー、判例の詳細分析、規程の整合性チェック

【Gemini (Google) の特徴】 得意なこと：・最新情報へのアクセス（リアルタイム Web 検索）・Google サービスとの連携（Gmail、Drive、Calendar 等）・多言語対応（100 以上の言語に対応）・画像・動画の理解（マルチモーダル） 注意点：・法律分野の専門性は ChatGPT・Claude より劣る場合がある・出力の正確性にバラつきがある おすすめの使い方：最新の法改正情報の収集、判例検索、ニュース分析

実践的な使い分け戦略

【タスク別の AI 選択ガイド】 契約書のドラフト作成 → ChatGPT 長文契約書のレビュー → Claude 最新の法改正情報の収集 → Gemini 法的論点の整理 → ChatGPT or Claude 判例の詳細分析 → Claude データ分析・統計処理 → ChatGPT (Code Interpreter) 複数言語の翻訳 → Gemini 社内文書の検索 → Gemini (Google Workspace 連携) 上級テクニック：「セカンドオピニオン戦略」重要な判断が必要な場合、複数の AI に同じ質問をして、回答を比較する。例：ChatGPT で契約書を作成 → Claude でレビュー → Gemini で最新法令を確認

4. 英語プロンプトとの併用テクニック

英語プロンプトが有効な場面

ChatGPT、Claude、Gemini は元々英語で訓練されているため、英語プロンプトの方が出力品質が高い場合があります。特に、最新の法律用語や専門的な分析を求める場合、英語プロンプトを試してみる価値があります。

【英語プロンプト活用のヒント】 1. 日本語プロンプトで期待通りの出力が得られない場合、英語で試す 2. 英語で質問→日本語で回答してもらう（ハイブリッド） 例："Please analyze this contract in Japanese." 3. 法律用語は英語の方が正確な場合がある 例：Indemnity（補償）、Warranty（保証）、Representations（表明） 4. Google 翻訳や DeepL を使って、日本語プロンプトを英語に変換する

実践例：英語プロンプトの活用

【例 1：契約書の複雑な条項分析】 日本語プロンプト：「この契約の損害賠償条項のリスクを分析してください」 英語プロンプト（より詳細）："Please analyze the risks in the indemnity clause of this contract, focusing on: 1. Scope of liability 2. Caps on damages 3. Exclusions and limitations 4. Time limits for claims Please provide your analysis in Japanese." → 英語で指示すると、より体系的に詳細な分析が得られることが多い 【例 2：M&A 契約の表明保証条項】 英語プロンプト："Draft representations and warranties clauses for a stock purchase agreement under Japanese law. Include standard provisions for financial statements, litigation, intellectual property, and employee matters. Provide the output in Japanese." → 国際的な標準フォーマットを踏まえた出力が得られる

5. トラブルシューティング

よくある問題と即効性のある解決策

【問題 1：AI が同じことを繰り返す】 症状：追加質問をしても、前の回答と同じ内容を繰り返す 解決策：・「上記とは別の視点で」「新しいアイデアを」と明示する・「〇〇については既に説明済みなので、△△に焦点を当ててください」と指示・会話をリセットして、最初から聞き直す

【問題 2：出力が長すぎる】 症状：10 ページ以上の出力で、要点が掴みにくい 解決策：・「〇〇文字以内」「A4 用紙 1 枚」と具体的な制約を追加・「エグゼクティブサマリーを作成してください」と依頼・「最も重要な 3 点に絞ってください」と指示

【問題 3：抽象的で具体性がない】 症状：「リスクがあります」「検討が必要です」など、曖昧な表現が多い 解決策：・「具体例を 3 つ挙げて説明してください」と追加質問・「数値を示してください」「金額の目安を教えてください」と要求・「実際の事例を交えて説明してください」と依頼

【問題 4：間違った情報を出力する】 症状：存在しない判例を引用、条文番号が間違っている 解決策：・「根拠となる条文を示してください」と要求し、e-Gov 法令検索で確認・「判例の正式名称と出典を教えてください」と依頼し、裁判所サイトで確認・疑わしい情報は必ず人間が検証する（AI を盲信しない）

【問題 5：AI が回答を拒否する】 症状：「申し訳ございませんが、その質問には答えられません」と表示される 解決策：・質問の仕方を変える（例：「法的助言」→「検討の視点」）・別の AI を試す（ChatGPT→Claude、Claude→Gemini）・機密情報が含まれていないか確認（実名、金額等を匿名化）

【問題 6：出力の品質にバラつきがある】 症状：同じプロンプトでも、日によって出力品質が

異なる 解決策：

- ・プロンプトをより具体的にする（役割、制約条件、出力形式を明示）
- ・複数回試して、最も良い出力を選ぶ
- ・「良い出力」が得られたプロンプトを保存し、再利用する

まとめ：AI活用の「プロ」になるために

本付録で紹介したテクニックは、すべて「明日から使える」実践的なものばかりです。最初から全部を完璧にマスターしようとせず、まずは1つか2つのテクニックを試してみてください。

【AI活用の上達法】 1. 毎日少しづつ使う → 週1回より毎日5分の方が上達する 2. 良い出力と悪い出力を比較する → 何が違うか分析し、パターンを見つける 3. 他の人のプロンプトを参考にする → 社内で共有し、ベストプラクティスを蓄積 4. 失敗を恐れない → AIは何度でもやり直せる。試行錯誤が上達の近道 5. 繼続的に学ぶ → AIは日々進化している。新機能や活用法をキャッチアップ

AI活用は「**スキル**」です。最初はうまくいかなくても、続けるうちに必ず上達します。1ヶ月後、3ヶ月後、半年後の自分を楽しみに、コツコツと実践を重ねていきましょう。

本プロンプト集を活用し、本付録のテクニックを実践することで、あなたも「**AI活用のプロ**」として、法務業務の効率化と品質向上を実現できるはずです。